

私は、前号で紹介したように、天理大学生に「SDGs」に関する意識調査を、春学期試験の一つの設問として実施した。設問は「天理大学として『SDGs』を実践するには、どのような方法・内容が考えられるか？ 具体的な事例をあげて説明しなさい」だった。試験を受けた学生は270名で、その内の有効回答者数は263名。複数回答は可とした。その結果、「SDGs」17目標に対する回答は504項目数で、1人あたり平均1.9項目の回答数だった。

「SDGs」17目標に対する回答

17目標のうち、回答項目数が最も多かったのは目標12「つくる責任つかう責任」で、103項目数だった。これは「持続可能な生産消費形態を確保する」ということで、生産者・消費者それぞれが、さまざまな生産物に対して責任をもつことの必要性、重要性を示したものである。

回答した103項目数の内訳をみると(図1)、衣類や食料などさまざまな生活用品への積極的な再利用を促す、「3R(Reduce, Reuse, Recycle)」の推進を含む「リサイクル全般」について回答したのは35%。それとは別に、「特に、脱プラ・ごみの分別」というレジ袋の削減と脱プラ化、エコバッグの使用、ごみの分別など、温暖化対策を見据えた積極的な対策を図るべきと回答したのは36%、さらに、「特に、フードロス解消」という「物を大切に」の視点から、食べられる食品廃棄量を積極的に減らす食品ロスへの解消を促す回答は29%だった。

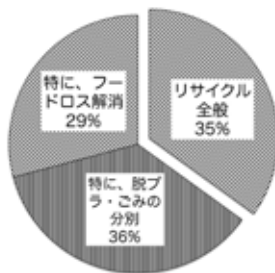


図1 SDGsの目標12に関する回答項目数の内訳。

2番目に多かったのは、目標17「パートナーシップで目標を達成しよう」で、78項目数だった。目標17は、1～16までの目標を達成するための協働(パートナーシップ)が主なテーマである。回答にあった具体的な事例は、天理大学は地元の環境保護団体や行政と一緒に、布留川清掃やごみ拾いなど、市街地や川の掃除に積極的に参加すべきという内容だった。また、参加した学生には「エコ体験」を学内ボランティア活動の一環としてポイントを付与したらどうか、という意見もあった。

3番目は、目標7「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」で、59項目数だった。省エネのための節電やエアコンの適切な温度管理のほか、温暖化対策として白川グラウンドに風力発電装置を、また校舎や体育館など屋上には太陽光発電装置を設置してはどうか、との意見もあった。ユニークな意見としては、普段トレーニングで使用するルームランナーを発電にも使えるようにしてはどうかなど、企業とも積極的に協力・協働を図るべきなど、多様な意見があった。

4番目は、目標4「質の高い教育をみんなに」で55項目数だった。たとえば、「SDGs」に関する授業を公開・必修にする、幼

小中高の園児や生徒にもこの授業を公開にするなど、天理大学として質の高い教育を試みるべきという意見が多かった。

5番目は、目標15「陸の豊かさを守ろう」で、42項目数だった。温暖化防止を兼ねた緑陰と安らぎのある緑地景観や、ホテルが飛び交う小川をキャンパス内に造成してはどうか。また天理教営繕部造園課、天理高校農事部、幼小中高の園児・生徒などと一緒に、緑のカーテンや花壇づくりをしてはどうかなど、天理大学だけでなく、天理学園全体で活動を推し進めるべきだとする意見もみられた。

以上のように、上位5番目までの回答数は337項目数(66.9%)を占めた。一方、回答項目数が皆無だったのは目標9「産業と技術革新の基盤をつくろう」だった。また、わずか3項目数だったのは、目標8「働きがいも経済成長も」と目標16「平和と公正をすべての人に」だった。項目数の多寡は、授業での理解状況と普段の意識とが関連していると思われる。

とりわけ、体育学部の学生が回答した「白川グラウンドに風力発電装置を」や「ルームランナーを発電にも使えるようにする」という意見は、ユニークな視点・発想である。それは、「グラウンド⇒風が吹く⇒風力発電に最適」という思考であり、また《トレーニングルーム⇒ルームランナー使用⇒回転力を電気に変換させる》という「ルームランナー・タービン」の着想で、これらはまさに「知識」を「知恵」に変えた結果である。

天理大学に特化した独自の「SDGs」

有効回答者数の263名の中には、「SDGs」の17目標に該当する項目だけでなく、天理大学に特化した独自の「SDGs」についての回答もあった。その回答項目は、「建学の精神に基づく三つの柱」、「エコキャンパス宣言」、「国際貢献・国際参加プロジェクト」、「スポーツの普及と指導」、「天理教との協働・実践」、「天大として農産物の地産地消」、「子ども食堂・フードバンク」の7つ(の目標)に分類された(図2)。

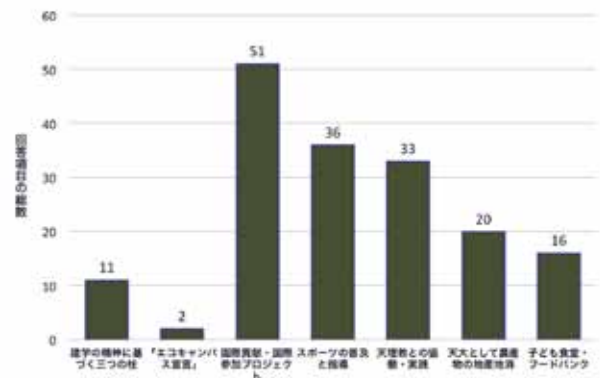


図2 天理大学に特化したSDGsの7つの目標と項目数。

「建学の精神に基づく三つの柱」に分類されたのは11項目数で、既存の「エコキャンパス宣言」の活用は2項目数だった。一方、「国際貢献・国際参加プロジェクト」は51項目数で最も多く、次いで多かったのは、天理スピリットに基づく「スポーツの普及と指導」の36項目数で、「天理教との協働・実践」の33項目数、教職員・学生による農業振興を目的とした「天大として農産物の地産地消」の20項目数、生産した農産物を学食や地域社会へ無償提供するための「子ども食堂・フードバンク」の16項目数が後に続いた。